

## 第 26 回 ヨーク大学社会政策学部について

こんにちは、ヨーク大学社会政策学部の高橋伸太郎です。現在、私はイングランド北東部に位置するヨーク大学の社会政策学部の学部課程に在籍しています。英国の総合大学というと、オックスフォード大学やケンブリッジ大学などが、中世に設立されたため、一般的に長い伝統を持っているというイメージがありますが、ヨーク大学が設立されたのは 1960 代前半です。1960 年代というと、ウォーリック大学やケント大学など、郊外に広大なキャンパスを持つ大学の設立が相次いで行われた時期で、ヨーク大学はそれらの大学とともに、「campus universities」と言われています。

ヨーク大学は設立から、わずか 40 年ほどしかたっていませんが、現在、30 以上の学部と研究所を持っています。私が在籍している社会政策学部では、公共セクターなどの分野でのキャリアを目指す学生を対象に、学部課程(三年)と修士課程(一年)、博士課程(三年以上)が提供されています。学部課程では、一年次において必修科目として、政治学、経済学、社会学、社会心理学系の基礎科目を履修します。そして、二・三年次において、それぞれの興味分野に合わせて専門科目を履修していきます。専門科目で履修可能な分野は、政策分析、医療・福祉、社会保障、犯罪対策、教育・雇用・職業訓練、環境、情報社会、住宅などです。また、政治学部や経済学部、健康科学部、社会学部、心理学部などからも、専門科目を履修することも可能です。

これまで、私は政策分析や情報社会政策、医療政策、犯罪政策などを中心に専門科目を履修してきましたが、その中でも印象深い授業の一つが、政策分析の科目で、「Recreating Government Workshop」と呼ばれるロールプレイをやったことです。そのロールプレイの内容は、英国政府の閣僚として、次年度の予算案と、次の総選挙のためのマニフェスト(政権公約)をつくることです。この科目を担当する、二人の講師の方がそれぞれ、首相と財務相役として司会・進行を行い、約 20 名の生徒は、閣僚やジャーナリストの役を演じます。閣僚役の生徒は、社会保障系の公共サービスを提供する四つの政府機関(副首相府、保健省、雇用・年金省、教育省)に分かれてグループをつくります。このロールプレイの期間は約一ヶ月で、その間、グループ別にレポートの作成や、週に二回、閣議やプレス・カンファレンスの形式で各種会議を行います。また、ジャーナリスト役の生徒は、その内容を元にニュースレターを発行します。

このロールプレイにおいて、私は副首相府を担当するグループに配属され、地方分権政策を中心にプランをまとめました。プロセスとしては、最初に英国政府が発行している、会計監査報告書や政策企画書などに目を通し、政策課題の現状認識を行うことから始めました。そして、現状の問題として、英国の場合、ロンドンやイングランド南東部に、人口や企業、政府機関が集中しているために、国内において南北問題が生じていることに着眼しました。そして、政策目標として、ホワイトホール(英国で霞ヶ関に相当)やウェストミンスター(同じく、永田町)から、地方政府へ権限を委譲することによって、独自の産業政策や社会政策を行えるようにし、地域経済の活性化を図ること打ち出し、具体策として、地域議会の設立や、政府機関の地方への移転を盛り込みました。

このロールプレイの面白いところは、現実の世界と同じで、政策立案能力に加えて、コミュニケーション能力が非常に重要になってくることです。例えば、すべての提言が取り入れられるわけではなく、首相と財務相役の講師によって政策課題の優先順位がつけられます。優先順位をつける判断要素には、政策プランの内容だけでなく、閣僚会議やプレス・カンファレンスなど、各種会議でのパフォーマンスも考慮されます。そのため、そして、少しでも他のグループよりも有利な立場に行くために、ジャーナリスト役の生徒に意図的にリークをしかけ、ニュースレターで攻撃してもらうなど、様々な駆け引きが行われます。また、ティーチング・アシスタントが演じる野党のスポークスマンに政策プランの内容を徹底的に攻撃されることもあります。

ヨーク大学社会政策学部は、将来的に、公共セクターなどにおいてアナリストや管理職として活躍したい生徒を対象に教育プログラムを提供しているため、セミナーやワークショップなど、全体的に双方向型の授業が多です。マニフェストの発祥の地は英国ですが、その作成プロセスも学生に体験させるのは非常に実践的だと思います。

2005年3月27日

高橋 伸太郎

所属:ヨーク大学社会政策学部社会政策専攻